

花うさぎの「世界は腹黒い」

日本が普通の国になるように。
産経新聞を応援しています。

第一回、第二回エントリー（2008/08/24）

「1000万人移民」にNO！ 国民集会
「世界は腹黒い」って？
「世界は腹黒い」と名付けたわけ

花うさぎ

検索

<http://hanausagi.iza.ne.jp/blog/>

第一回エントリー（2008/08/24）

「1000万人移民」にNO！ 国民集会

(<http://hanausagi.iza.ne.jp/blog/entry/691807/>)

自民党の外国人材交流推進議員連盟（中川秀直会長）がぶち上げた「50年間で1000万人の移民受け入れ」は日本国家の解体に直結するもので、まさに「亡国の底なし沼」に足を踏み入れたらとって過言ではない。

なぜ「移民」を受け入れてはならないのか、専門家・運動家・政治家が様々な角度からこの問題に切り込む。「移民は断じて受け入れてはならない。

【と き】平成20年9月3日（水）午後7時開会 [6時半開場]

【ところ】文京シビックセンター小ホール [定員371名・予約不要]

【入場無料】(カンパ箱あり)

【登壇者】 加瀬英明（外交評論家）

村田春樹（外国人参政 権に反対する会）

平田文昭（アジア太平洋人権協議会代表）

笹井宏次朗（元サンパウロ新聞社会部長）

三輪和雄（日本世論の会会長） 有志国会議員・地方議員

【主 催】 「1000万人移民」にNO！ 国民集会実行委員会

第二回エントリー（2008/08/24）

「世界は腹黒い」って？

(<http://hanausagi.iza.ne.jp/blog/entry/692035/>)

「世界は腹黒い」と名付けたわけ

これは産経新聞OBの高山正之氏が1998年から2001年まで、産経新聞東京夕刊に寄せたコラム「異見自在」を、2004年9月に一冊の本にまとめた際のタイトルである（高木書房刊、1890円）。

氏ならではの、物事の本質をさりげなく示しながら、ひねりと嫌み、ユーモアたっぷりに我々に提示する筆のタッチは熱熱なファンを持ち、現在も週刊新潮誌上で「変見自在」として連載されている。

もちろん、私も氏の大ファンであり、無条件で週刊新潮を購入しているのも、この「変見自在」のコラムを読みたいが故である（このシリーズも既に三冊の単行本になって発売されてる）。そういう人も多いと思う。

氏のコラムからは実に多くのことを学んだが、中でも眼から鱗だったのは、保守派の論客でも、アメリカが日本を敵視するようになったのは日露戦争に日本が勝利してから、という見解が大勢だったのに、氏は実はその十年も前のアメリカがハワイを侵略したときだと談じているのである。

それに無言の抗議の意を戦艦派遣で表したのが他にもない、あの東郷平八郎大日本帝国海軍大将と知って、実に痛快な思いをしたのを鮮明に覚えている。というわけでこの「世界は腹黒い」はそれ以来私の気にいった言葉となった。

今回、はからずもブログを開設することになってネーミングを考えたのだが、以上のような理由から高山氏に断りもなく、かつてにタイトルを拝借した次第だ。

同時に白人キリスト教国家が16世紀以降、世界を植民地化していく過程で、いかに残虐無比な人種差別、植民地政策をしてきたのかを書いていこうと思っている。日本が明治維新、日清・日露戦争、そして大東亜戦争へと進まざるを得なかった理由も、元を正せばここに原因があるからだ。

別の事情で私にブログを開設せよというご意見をいただいたのがきっかけだが、そんなことで気楽に、書きたいことがあったらエントリーを上げるつもりだ。全然期待しないで欲しいと思う...(^_^)。



Z旗とは...Wikipediaより

Z旗（ゼットキ）、Z信号旗は、船同士の意味疎通のために用いる国際信号旗の一。国際信号旗はアルファベット文字旗（26種）、数字旗（10種）、代表旗（3種）、回答旗（1種）の計40種。

この中でZ旗はアルファベットの「Z」の文字を示す信号として用いられる他、単独で「私は引き船が欲しい」、漁場では「私は投網中である」の意を示す信号としても用いる。

海戦における使用

日本では日露戦争の日本海海戦に際して、東郷平八郎連合艦隊司令長官の座乗する旗艦三笠がZ旗を檣頭（マスト）に掲揚して全艦隊の士気の高揚を図った出来事が有名。

このときの意味は「皇国の興廃此の一戦に在り、各員一層奮励努力せよ」で、名文家として有名な秋山真之の作である。これはこの時に使用されていた連合艦隊向け信号簿で上記文言がZ旗に割り当てられていたというだけでなく、国際的にはZ旗は前節の意味しか有していない。しかし日本海海戦の逸話により日本海軍ではZ旗は特別な意味を持つこととなり日本海海戦以後、日本海軍では重要な艦隊戦の際にZ旗を掲揚することが慣例化した。有名なものは真珠湾攻撃での赤城であるが、実際に上げたのはDG旗（「D」「G」の順で並べて掲揚）である。DG旗はZ旗と同意味で用いられた。また、太平洋戦争末期の第二五二海軍航空隊攻撃第3飛行隊は、彗星の垂直尾翼にマーキングとして使用した事で知られる。

海戦に際してZ旗に上記文言が割り当てられて掲揚された理由は、トラファルガーの海戦におけるネルソン提督の行動にならったものとの説や、発祥は、「Z」がアルファベット最終文字である事から「後はない」という決戦の意思として用いたとの説もある。

ダットサンZ / フェアレディZ における逸話

1960年代中期、当時のアメリカ日産の社長・片山豊が企画提案したのがきっかけで開発が始まったスポーツカー「開発コード「Z」」のスタッフ達に、片山豊が奮起を願って贈呈した旗でもある。車名は当時片山豊が望んだ「DATSUN Z」ではなく、日本では「フェアレディZ」とされ、販売された。片山豊が当時社長を勤めていたアメリカ日産では、「DATSUN 240Z」として発売された。

Wikipediaより

高山正之（1942年～）は、日本のジャーナリスト、コラムニスト。元産経新聞記者、元帝京大学教授。

東京都出身。東京都立九段高等学校を経て、1965年、東京都立大学法経学部法学科卒業後、産経新聞社に入社。警視庁クラブ、羽田クラブ誌、夕刊フジ記者を経て、産経新聞社会部次長（デスク）。

1985年から1987年までテヘラン支局長を務め、1980年代のイラン革命やイラン・イラク戦争を現地取材。また、アジアハイウェイ踏査隊長としてアジア諸国を巡る。1992年から1996年までロサンゼルス支局長。1998年より3年間、産経新聞夕刊1面に時事コラム「高山正之の異見自在」を執筆し多くの反響を得る。

定年後、2001年から2007年3月まで帝京大学教授を務める。現在、『週刊新潮』誌上で「変見自在」、『テーマス』誌上で「日本警世」、『Voice』誌上で「日本の事件簿」を連載中。



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画

☆マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きなのは必見！☆
「凜として愛」「氷雪の門」「誇り～伝えよう日本のあゆみ～」
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに…」

izaブログランキング
【全体】2位 【政治】1位
(2011年12月30日時点)